

「これも今となつては昔のことだが、伴大納言善男は佐渡の国の郡司の従者である。その国で善男が夢に見ることに、西大寺と東大寺とに、股を開いて踏ん張つて立っていると（いう夢を）見て、妻である女にこの事の次第を語る。妻が言うことには、「あなたの股がきつと裂かれるのだろう。」と夢判断をするので、善男は驚いて、つまらないことを話してしまつたなあど恐ろしく思つて、主人である郡司の家に向く時に、郡司はこの上ない占い師であつたのだが、普段はそうもしないのに、思いがけず下にもおかぬようにもてなし、円座を取り出して向かい合つて（縁側に）お召し寄せになつたので、善男は奇妙に思つて、私をだまして上にあげて、妻が言ったように股を裂こうするのだろうかど恐ろしく思っている時に、郡司が言うことには、「あなたは並々ならぬ高貴な様子の夢を見たことだよ。それなのに、つまらない人に（その夢を）語ってしまったことよ。（あなたは）必ず高い官位には出世しても、（何か）大事が起こつて罪を被るだろうよ。」と言う。そうしている間に、善男は縁を頼つて京に上つて、（出世して）大納言に至る。そうではあるけれども、罪を受ける。郡司の言葉と違わない。